# 愛知東邦大学 シラバス

| 開講年度(Year) | 2023年度 | 開講期(Semester) | 前期 |
|---|---|---|---|
| 授業科目名(Course name) | 音楽基礎 | | |
| 担当者(Instructors) | 水野 伸子,酒井 国作 | 配当年次(Dividend year) | 1 |
| 単位数(Credits) | 2 | 必修・選択(Required / selection) | 必修 |

## ■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

本授業は保育や教育の場面で必要となる音楽の知識・技能を身に付けることを目的に、楽典の講義と実技レッスンの２本立てで実施する。楽典（音楽の文法）の知識をもとに基礎的な楽曲分析をして曲の特徴を理解する。実技では曲の良さや特徴を生かし音楽的な意図を持って表現することにより、子どもの音楽活動を支える表現豊かな演奏技能を習得する。提出された課題は添削しコメントをつけて返し、授業において授業者による講評及び学生間の意見交流等を経て課題の理解を確かなものとする。

## ■授業形態・授業の方法(Class form)

| | |
|---|---|
| 授業形態(Class form) | 演習 |
| 授業の方法(Class method) | 演習、および実技形式で行う。楽典の授業や実技のクラス内発表では、ディスカッションやグループワークを取り入れる。 |

## ■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

| 回数(Num) | テーマ(Theme) | 内容(Contents) | メディア区分(Media) |
|---|---|---|---|
| 第1回 | 本授業の目的・内容の理解と自己課題の設定 | 【対面】本授業のねらいと授業計画を理解し、楽曲分析と演奏の両方に関する自らの課題を明確にする。楽器の取り扱いや練習室の利用方法を確認する。 | □ |
| 第2回 | 楽譜の基礎的な記号・楽譜の基本 | 【対面】楽譜に記載されている音楽要素や演奏上のルールを言葉で説明でき、それを演奏で表現出来ているかの確認をする。楽典(1)：楽譜。楽譜とは何か。ピアノ演奏にあたって必要な楽譜の基本について説明する。 | □ |
| 第3回 | 拍と拍子による階層的な拍構造・音の三要素 | 【対面】練習曲上で拍と拍子を説明でき、階層的な拍構造を理解し演奏に生かす。楽典(2)：音の三要素（高さ・強さ・音色）について学習。高さと強さについて楽譜上での書き方を学ぶ。音名を扱う。 | □ |
| 第4回 | 拍（beat）とリズムの関係の理解 | 【対面】練習曲上で拍とリズムそれぞれの特徴を理解し正しく演奏する。楽典（3)：リズム・メロディー・ハーモニーについて学習。楽譜の定量的記譜法（16分音符～全音符）と2/4、3/4、4/4について学ぶ。 | □ |
| 第5回 | 拍・拍子・リズムを生かした演奏表現と鑑賞(クラス内発表) | 【対面】互いの演奏を聴きあい、曲の特徴を拍・拍子・リズムから理解し、その良さを演奏で表現したり聴きとったりする。楽典（4)：楽譜の定量的記譜法（付点音符）と休符について学ぶ。 | □ |
| 第6回 | 音階の主音との音程関係から階名の理解 | 【対面】練習曲の各音を主音からの音程関係で捉え、主音を基盤とした音階の理解のもとに演奏表現する。楽典（5)：音程と長音階①。全音と半音について学び、ハ長調の音階を理解する。階名を学ぶ。 | □ |
| 第7回 | 音階上の音空間や音重力の理解 | 【対面】各音の音程関係の配列から音空間や音重力をイメージした演奏表現を知る。楽典（6)：音程と長音階②。単音程について学習し、音階の中の音程の関係を理解する。主音・属音・下属音を学ぶ。 | □ |
| 第8回 | 移調による主音の移動と音名・階名の整理 | 【対面】移調による主音や各音の移動を理解し、階名唱しながら演奏する。<br>楽典（7)：まとめ①第7回までの内容を総括する。 | □ |
| 第9回 | 調性と調号の理解 | 【対面】長調と短調、特定の音階を示す調号、主音と相対的な音程間隔にある音階の移動による移調構造などから調性を理解し練習曲を分析する。楽典（8)：派生音と反復記号。♯♭♮の記号や反復記号を理解する。 | □ |
| 第10回 | 音階との関連を意識した演奏表現と鑑賞(クラス内発表) | 【対面】旋律の味わいを音階との関連から理解し良さを演奏で表現したり聴きとったりする。楽典（9)：調号と近親調の音階。調号の書き方・意味を理解し音階を学ぶ。移動ドで階名が読めるようにする。 | □ |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第11回 | 速さ・強さ・曲想・奏法に関する表現と表示 | 【対面】速さ・強さ・曲想・奏法に関する表現と表示の方法を知り、表現豊かな演奏の方法を理論と実践から理解する。楽典（10）：さまざまな楽譜と楽語。楽譜に書かれている情報をまとめ、その読み方を総括する。 | □ |
| 第12回 | 和音を構成する音や音程関係の違い | 【対面】和音の種類を構成する音とそれらの音程関係から生み出される響きの違いから理解し練習曲を分析する。楽典(11)：和音。長三和音・短三和音・増三和音・減三和音及び属七の和音など、主要三和音を理解する。 | □ |
| 第13回 | コードネームとアルベルティ・バスの理解 | 【対面】練習曲をコード分析して演奏する。アルベルティ・バスの弾き方を知る。楽典(12)：コードネームの理解。コードネームの基本を理解し、読めるようにする。 | □ |
| 第14回 | カデンツによる和音進行の理解 | 【対面】練習曲の終止形に向かう和音進行を感じて演奏表現を行う。楽典（13)：コードネームの実践。やや複雑なコードネームも理解できるようにし、簡単なコードは演奏できるようにする。 | □ |
| 第15回 | 楽曲分析をもとに行う演奏表現と鑑賞(クラス内発表) | 【対面】本授業で学んだ楽曲分析をもとに曲の特徴を理解し音楽的な意図を持って発表し、その良さを聴き合う。楽典(14)：まとめ②。第14回までの内容を整理・総括する。 | □ |

**■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)**

事前学習として、練習の過程で疑問に思うこと・質問したいことなどをノートに整理する(2時間程度)。 事後学習として、授業で明確になった課題を楽譜に書き込み、読譜・楽曲分析をするとともに演奏の習得を目指し練習する。楽典の授業で用いられたプリントは復習し定着を図る（2時間程度）。

**■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)**

提出された課題は添削して返却し、翌週フィードバックし全体で共有する機会を持つ。

**■授業の到達目標と評価基準(Course goals)**

| 区分(Division) | DP区分(DP division) | 内容(DP contents) |
|---|---|---|
| 知識・技能 | ◆ 2019子ども発達DP1 | 基礎的な楽曲分析をして曲の特徴を理解し、音楽的な意図を持って表現の工夫をすることができる。 |

**■成績評価(Evaluation method)**

| 筆記試験(Written exam) | 実技試験(Practical exam) | レポート試験(Report exam) | 授業内試験（in-class exam) | その他(Other) |
|---|---|---|---|---|
| | 20% | | 40% | 40% |

**授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)**

授業内試験は楽典課題（40%）、その他は平常の授業での取り組みおよびクラス内演奏発表の評価を含む

**■テキスト(Textbooks)**

| No.(No.) | テキスト名など(Text name) | ISBN(ISBN) |
|---|---|---|
| 1 | 有本真紀・阪井恵・津田正之編著：教員養成課程　新版　小学校音楽科教育法（初等教育コース）/　教育芸術社 | 9784877888237 |
| 2 | 大海由佳・古谷和子編著：保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第2巻選べる3ステップ［改訂版］(保育・幼児教育コース）/ 学研プラス | 9784051541644 |
| 3 | 3つのコードで楽らく弾けるピアノ伴奏曲集　（全員）/ ドレミ楽譜出版 | 9784285144611 |
| 4 | コクヨ　音楽帳B5 5線譜12段 | |
| 5 | | |

**■参考図書(references books)**

| No.(No.) | テキスト名など(Text name) | ISBN(ISBN) |
|---|---|---|
| 1 | ピアノ演奏に関する楽譜・図書一般 | |
| 2 | | |

| | | |
|---|---|---|
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |